



2020年10月号(No.5)
公益社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
東京都千代田区四番町5-4
<https://www.jac1.or.jp>
編集担当: 新井 梓

3カ月に一度発行する「山」YOUTH版では、YOUTH CLUB 世代の会員のご活躍、東京や各支部のYOUTH CLUBの取組みなどをご紹介します。話題のご提供や感想など、ご意見何でもお待ちしております！

ヤマトモ 朝日新聞長野総局／近藤幸夫

コロナ禍を歩む山小屋の未来

今年はwithコロナで大変なグリーンシーズンでした。山に行ってもよいのか、いけないのか、逡巡するもどかしさがありました。この春・夏の登山を振り返るとともに、来季に向けて私たちにできることは何か、当会会員で朝日新聞長野総局の山岳専門記者である近藤幸夫さんにお聞きしました。

◆登山界に大きな衝撃

——9月に入り、登山者が次第に山に戻ってきましたが、最初はどのような状況だったのでしょうか。
近藤 4月27日、例年の上高地開山祭は中止になったものの、その時はまだそこまで深刻だとは思わなかったんです。でも実際現地に入って見て、驚いた。有数の観光地である上高地から人が消えたんです。こんなの戦争以来じゃないかと思った。朝日新聞映像報道部の協力を得てドローンを飛ばして撮影したら、河童橋はおろか、大正池にも岳沢にもどこにも人がいない。異常事態です。それで北アルプス山小屋友好会への取材を始めました。

長野県では、コロナ問題以前から、ただでさえ「ヘリ問題」で山小屋の営業に影響が出ていました。現在、北アルプスなど人気の山岳エリアへの物資輸送ヘリは、輸送費の高騰や操縦士の不足などで多くの会社が山小屋の輸送業務から撤退。ほぼ唯一といえる東邦航空だけでは輸送能力が下がり、昨夏は営業開始が遅れた山小屋もありました。このヘリ問題の影響も収まらぬうちのコロナですから、山小屋にとっては追い討ちという形でした。

——山小屋の方々の様子を近くでご覧になって、いかがでしたか。

近藤 みな、初めは手探りでした。当時は今以上にコロナを恐れていた。新聞にも写真を掲載しましたが、北八ヶ岳の黒百合ヒュッテでは、夕食時に従業員がフェイスシールドをして登山者に対応していた。これは衝撃的な光景でした。だから私も、日本

フェイスシールドをする黒百合ヒュッテの従業員



登山医学会から相談され、山小屋の営業のための行動指針と一緒に検討しました。初めは厳しく徹底した内容でした。それがだんだん必要最小限に絞られてきて、今では山行の持ち物に、マスク、体温計、インナーシート、アルコールジェルを持参することがスタンダードになってきましたよね。

◆山小屋の「公共性」

——9月の報道で、環境省が2021年度から、国立公園内にある山小屋の運営事業者に、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた施設改修費を補助する方針がありました。政治への働きかけも継続して行われてきたのでしょうか。

近藤 GWの段階から、北アルプス山小屋友好会(穂高連峰周辺、乗鞍、裏銀座・飛騨の山にある山小屋施設で結成した会)の山田直会長(横尾山荘代表)らが中心になって、長野県の阿部守一知事に窮状を訴えてきました。そもそも山小屋は満員にならないとペイしないのに、宿泊客が半分から1/3まで落

ちている。アルピコ交通は便数を減らしてインフラも弱くなっている。山岳エリアの観光収入が大きい長野県にとっては、危機的状況なわけだ。

山小屋は、自分の小屋の営利だけを考えて運営されているわけではありません。登山道の整備、周辺の美化、遭難救助、トイレの管理などを行って、人々が安全に快く自然と触れ合うことのできるよう、公共的な役割を担っているのです。このことは、これまであまり声高に言われることはありませんでしたが、今回のことで初めて、山小屋の公共的役割が知られてきたのではないのでしょうか。

山田さんたちの訴えが政治に届き、長野県では山小屋1軒あたり30万円を支給する一般会計補正予算(山小屋支援事業費4500万円)が6月の長野県議会で成立しました。また、地図アプリの「YAMAP」と「山と溪谷社」が別々に立ち上げた山小屋支援のクラウドファンディングによる寄付金が、二つ合わせた当初目標額500万円を遥かに超える約1億6000万円にのぼりました。集まったお金は、山小屋の運営事業者に分配されます。

北アルプス山小屋友好会の動きが大きな機運となり、情報発信が実を結びつつあるのです。

◆来季への不安、私たちにできること

——まもなく大勢の登山客で賑わうグリーンシーズンが終わり、冬がやってきます。来季はどうなるのでしょうか。

近藤 山小屋の方々がよくおっしゃるのは、「コロナ対策は、登山者の協力がなければ到底実現できない」ということ。山小屋がいくら感染予防対策を講じて、登山者の行動ひとつで無駄になってしまうのです。

長野県では登山者へ「登山者への5つのお願い」を作成して周知しています。その内容は、①体調に不安がある場合は、絶対に入山しないこと ②山小屋・テント場の営業確認、事前予約を徹底すること ③十分に難易度を落とした山選びをすること ④混雑を回避する登山計画により行動すること ⑤感染予防グッズを携行し、ゴミは持ち帰ること。

言わずもがなですが、無断キャンセルはやめましょう。登山者が自分たちの居場所を自分たちで守ることが必要です。

来年もコロナ禍が続けば、8割の山小屋が倒産するとも言われています。この問題を山小屋業界だけのことにするのはではなく、登山者、登山団体が一緒に考えて行動すること。これしか手立てはないと思います。

——山小屋の方々に任せるだけではなく、登る私たちもこの状況を一緒に考えて登山文化を継続していくための行動をとっていかなくてはならないですね。ありがとうございました。(聞き手：新井 梓)



角打ち
コーナー

尾野っちの山と酒

いい水は、いい酒を生む。山に個性があるように水にも個性があり、酒にも個性が現れる。米も違えば味が変わる。もう一つ酵母も重要で、香り、味を左右する。その上、杜氏の技が発揮されるから日本酒は複雑だ。

ここでは長野の小布施ワイナリーの極めて希少な日本酒を紹介する。ブドウ畑で仕事ができない短期間、ごく少量仕込む蔵で、明治以降、各地の蔵で採取された伝統的酵母を全て使って昔の酒を生原酒・生酛造りで再現している。

酵母ごとに計10数本あり、昨春購入した酒のうち、まだ3本秘蔵している。熟成して超マニアックな味になる

のを期待している。夏を過ぎた酒を「秋(冷やおろし)」と言うように日本酒は熟成を楽しめる。

いい山はいい水を生み、いい酒を醸す。評判の銘柄、未知の酒があれば「一杯、一杯また一杯」。山と酒の楽しみは尽きない。

◆小布施ワイナリーは長野県北部の志賀高原や戸隠、黒姫山周辺に行った際、立ち寄りしてほしい。

(四国支部 尾野益大)



お願い

引越しやその他の事情で登山道具が不要になった方は、YOUTH CLUBの共同装備に譲ってください(使用可能なもの)。お申し出は本部事務局まで。折返し連絡いたします。

◎YCの支部紹介◎東海支部

東海ユースの活動

自立した登山者として山を楽しむ

私たち東海ユースは、2013年、登山教室の卒業生を中心に結成されました。初心者対象の登山教室だったため、結成当時は、やっと買い揃えた登山道具が馴染んできた頃で、もっといろんな山を自分たちで楽しみたい、もっと安全登山に必要な技術を学びたい、という気持ちのメンバーが集まりました。

現在は新しい仲間も増え、指導員4名、会員16名で、安全登山を第一に、自立した登山者として山を楽しむために活動を行なっています。

●活動はミーティングと定例山行

主な活動は、年4回のミーティングと月1回の定例山行です。ミーティングでは、活動報告、会計報告やユースの運営に関しての話し合いを兼ねなく行なっています。定例山行だけでなく、個人山行の情報交換も楽しみの一つで、他の会員の報告はとても参考になり、新たな山への意欲にもつながります。

定例山行は企画委員が中心となり計画を立て、実施しています。企画委員は会員が持ち回りで担当し、指導員の方々からアドバイスを頂きつつ、行き先やコースタイムを考えます。企画委員になると行き先やコースの選定、そこまでのアクセス方法などを話し合い、地図を見ながら、季節や天候の条件を頭に置きつつコースタイムを考える、という慣れないメンバーにはなかなか大変な作業ではありますが、とてもいい経験になります。また、山行に参加するメンバーもリーダー、サブリーダーはもちろんのこと、会計、記録、報告などをそれぞれが担当し、山行が終われば報告書を出して、会員で情報を共有できるようにしています。

定例山行は、日帰り登山が中心で、愛知の近県が主な行き先です。季節によって、花や雪景色を楽しんだり、沢登りをしたりしています。時には、ロープワークやファーストエイド、地図読みの講習会や実地実習も行っています。

最近実施した山行例を挙げると、鈴鹿の釈迦ヶ岳、あぶらひだけ竜ヶ岳、高畑山～油日岳の南部縦走、木曽の南沢山、いぶしやま飛驒の猪臥山、奈良・三重の高見山、滋賀の伊吹山



雄大な展望の伊吹山を下る

などです。天候に恵まれ、素晴らしい絶景が楽しめる山行もあれば、雨に降られ、ガスで全く景色が楽しめない山行もあります。快適な気候で、爽やかな風を感じ、花や鳥の声を楽しめる山行もあれば、ひたすら暑く朦朧としながら歩く山行や寒さに凍え、指先が動かず数分でも立ち止まっていられない山行もあります。少しずつですが、いろいろな経験をしながら、山に向き合っています。

私たち東海ユースは、ほとんどの会員が社会人になってから登山を初め、それぞれのペースで登山に取り組んでいます。登山技術を向上させ、クライミングや雪山へ果敢に挑戦している会員もいれば、私のように体力の衰えに抗いながら、まずは現状維持で、登山はもちろんのこと、登山後の入浴やお疲れ様飲み会を楽しみにしている会員もいます。

●楽しい個性豊かな仲間たち

会員一人一人が日常生活では出会えないような個性豊かな楽しい仲間です。山を初めた理由も登山を続ける理由もそれぞれですが、そんな私たちが一緒に楽しく活動が続けていけるのは、みんな山や自然が好きで、それを仲間と共有したい、そして他人任せではなく何とか自立して安全に登山を楽しみたい、という気持ちがあるからではないかと思います。

また設立当初から惜しみなく支援をしていただけたベテランの先輩方の存在なしでは私たち東海ユースの活動は語れません。今コロナ禍で活動の休止や縮小を余儀なくされていますが、また活動の再開が心置きなくできる日が来るのが待ち遠しいです。

(玉木 恵)

連載⑤私もスキーに連れてって



雪だ、スキーだ、滑りだそう

心乱される今夏でしたが、早くも雪の便りが聞こえてきました。今回は冬の楽しみスキーのススメを一席！

●スキーのコツを教えて！

答えは「加重したスキー板と外力を股関節で調整して、スキーを前に走らせる感覚」。この時点でほとんどの初心者は??でしょう。

スキーは「加重をかける・コケないようにバランスをとる」を体で会得するしかありません。はじめは緩い斜面で練習を繰り返して、加重でスキーを曲げることと、スピードに見合った先行動作をしっかりと体に覚え込ませます。加重を理解せずに滑ると、いつまでもスキーのテールを開く体重移動のターンしかできないので、新雪・悪雪でターンが出来ず、転倒・ケガとなります。

地道な努力こそがスキー上達の要なのです！

●レンタルとか人から借りて始めても良いですか？

スキーは道具を使いこなす系のスポーツです。ゲレンデ用スキーは中級用までは、ほぼ同じ性能なので、好きな色とかで選んでも大差ありません。将来は山スキーも兼用で使いたい人は相応の知識が必要です。

スキー板の長さは自分の身長と同じ±10cmが目安です。種類はロッカー形状でセンター幅が太いファットスキーから選ぶことになります。センター幅は経験的に85mmから100mm前後までが操作性と新雪・悪雪での滑りやすさがマッチしています。靴は多少高価になりますが、テックビンディング対応で熱成型の出来るインナーの山スキー用がゲレンデでも使いやすく、性能も十分です。

ビンディングはテックビンディングと呼ばれるタイプで、前後の解放値が設定できる安全性の高いタイプを選びましょう。流れ止め（リッシュ）は転倒時のケ



ガの原因・雪崩遭遇時の深い埋没となるのでやめましょう（板を取るか命を取るか）。

●岳人としてスキーに行くとは

ぴーひゃら音楽の遊興スキーはやめた方がよい。ゲレンデスキーと言えども、天候を読み、積雪状況や雪質の観察を怠らず、雪の感性を磨くためにスキーをするべきです。（東秀訓）